



①変圧器組立工程
②熟練の技が求められる巻線工程
③変圧器製品
④電源システム製品
⑤変圧器、芯部分の組立
⑥設計フロア

たいせい でん き こうぎょう
大誠電機工業 株式会社

- 企画力
- 短納期
- 小ロットOK
- 量産OK
- 試作OK
- ノウハウ技術
- 海外対応
- 連携力

代表取締役
佐々木 誠さん



欧州や北米の規格に対応した
輸出機械向けの変圧器も提供できます

創業から55年。「信頼と向上」を経営理念に掲げて、優れた品質と安心の提供を最優先に変圧器やUVランプ用電源システムの製造を手がけてきました。品質管理や環境対応でISO(国際規格)を取得、海外規格への早期対応など品質の向上に努めるとともに、日々、技術の向上に挑戦しております。納期、予算、輸出対応など、細かくご要望をお伺いし、お客様への最適な提案を心がけています。変圧器を中心に電源まわりのことでしたら、何でもご相談ください。これからも高い信頼を得られるよう顧客満足の向上を追求して参ります。

- 主な事業内容
産業機器用変圧器、リアクトル、電源、制御盤、分電盤製造
- 主な取引先(納入先)
商社(代理店) 経由で各種産業機器、システムメーカー

住 所 / 〒570-0043
大阪府守口市南寺方東通4-15-11
TEL / 06-6993-7831
FAX / 06-6993-7835
創 業 / 昭和37年4月
設 立 / 昭和56年6月
資本金 / 2,000万円
従業員 / 45名

<http://www.jp-taisei.com/>

国際基準・海外規格に適合した 変圧器づくりで追随許さず

事業内容と沿革

国産産業機械の輸出拡大を背景に事業拡大

先代社長が独立した昭和37年は比較的小型の汎用変圧器に需要が旺盛だった。佐々木誠社長は創業当時の様子を「初めは家内制手工業的な工場だった」と話す。高度経済成長を追い風に仕事も拡大の一途をたどる。

昭和56年に法人化し、産業機械向けの変圧器で自社ブランドを確立しようと、体制を整えた。社員は15名程度でスタートし、順調な需要拡大とともに、機械設備、人員の増強を進める。法人化の4年後には大阪府門真市に新工場を構えた。大阪府守

口市の現在の工場に拠点を移したのは平成9年のこと。国産産業機械の輸出が増えだし、欧州の規格への対応に取りかかった頃と重なる。メーカーから求められる形で、印刷機械などでインキ硬化に使うUVランプ用の電源装置システムにも参入した。

工場隣地に新棟を構え、現在の生産体制を整えて約10年。産業機械の安全駆動を支える基幹ユニットとして、さまざまな変圧器を開発、供給している。

強み

顧客の 細かな仕様要求にも 柔軟性を持ち取り組む

「良いモノを短期間に供給できても当たり前だと思われてしまう」と佐々木社長は苦笑する。納入先からのコスト要求はシビアだが、品質をおろそかにすることは許されない。量産メーカーにはまねすることができないであろう機動力で勝負する考えだ。

ときには、機械設備の狭い場所に搭載できるような変圧器をつくってほしいなどという困難な要望も寄せられる。これまでの知見をもとに、工夫を凝らして設計チームは挑戦。顧客の細かな仕様要求にも柔軟性を持って取り組むことで、期待に応えてきた。

生産現場では、見習いからはじめて一人前の仕事ができるまでには数年かかることとされるコイルの巻き線工程に代表されるさまざまな技能、国際基準に適合した品質管理システムの運用とともに、人材と技術力を強みとしてきた。佐々木社長は「すべては信頼あってこそだ」と繰り返す。地道に実績と信頼を積み重ねてきた結果が、今日の仕事、明日の仕事へとつながっている。

取り組み

現場主体で模索した 国際基準の認証取得

輸出する産業機械に搭載するため、欧州と北米の規格に準拠する製品づくりを早くから進めてきた。品質マネジメントシステム「ISO9001」の取得は平成12年。佐々木社長は「コンサルタントを入れず、自分たちで模索した」と振り返る。外部の専門家が介入することで現場が混乱しないように「現場発」の認証取得を目指した。自らで知見を得て、社内で検討を重ねる。結果、これまでの仕事の流れをそのままに、品質検査や工程管理をより厳格化、文書化するという改善で「現場が受け入れやすい仕組みを作れた」と佐々木社長は自負する。

平成18年には環境マネジメントシステム「ISO14001」も取得。生産工程で発生する絶縁材料や銅線のロスも有価物とみれば非常にもったいないものだ。取得を機に歩留まりへの考え方も変わった。以前、年8t程度出た廃棄物は3分の1以下に削減。環境負荷の低減だけでなく、原価低減にも大きく貢献している。

今後の展開

環境対応の商品・技術で 省エネ化の流れに期待

佐々木社長は「省エネ化の大きな流れは追い風。変圧器全般にトップランナー規制を導入すべきだ」と熱弁を振る。無負荷損失を大幅に低減できるアモルフラス鉄心を使い製造するアモルフラス変圧器は、従来のケイ素鋼板を使う変圧器に比べて電力損失を3分の1に減らし、待機電力も極小化できる。環境配慮のため、電源設備メーカー向けのアモルフラス変圧器の需要が堅調だという。

UVランプ用の電源装置システムは、光源をLED・UVにして消費電力を抑え、寿命を長くした商品を、設備メーカーと組んで印刷関連機械のリニューアル時に交換を提案していく考えだ。

先行きが不透明な中、一時的に受注が増えても後のリスクとなる可能性は否定できない。人数や生産スペースを増やさず、各工程を見直して合理化を図る。生産性を高めることで負荷変動にも強い体制づくりを狙う考えだ。佐々木社長は「和を大切に良い仕事をしていきたい」と願う。

金属加工

プラスチック加工

機械

部品部材

生活・環境